

令和3年度(2021年度)第1回北海道紋別養護学校評議員会 議事録

1 日時

令和3年(2021年)7月12日(月)10時30分～11時40分

2 場所

北海道紋別養護学校視聴覚室

3 出席者

(1) 学校評議員

鍋 島 博 様

藤 井 康 成 様

(2) 職員

校長：町田

教頭(紋別養護学校)：高嶋

教頭(紋別養護学校分校)：福島

事務長(紋別養護学校)：西村

紋別養護学校職員：森、黒川、米森、山崎

4 議 題

(1) 学校経営方針について

(2) 教育活動について

ア 紋別養護学校

イ 紋別養護学校ひまわり学園分校

(3) 次回の開催日について

5 議 事

(1) 議題1 学校経営方針について

ア 町田(校長)から資料「紋別養護学校(ひまわり学園分校)グランドデザイン」「令和3年度(2021年度)具体的取組(学校評価指標)本校」「令和3年度(2021年度)具体的取組(学校評価指標)ひまわり学園分校」に基づき説明

イ 質疑応答(有・無)

(藤井) コロナ対策をしながら、学びの保障もしていくことが必要。また安心安全の学校をつくるために、人権を守ることも意識していくことが必要であり、その際には漠然としたものにならないよう、具体的に示していく必要がある。

(鍋島) 学校経営についての説明を聞いて、子どものためのしっかりとした一本の柱があると感じた。今後は、それをどのように職員に浸透させていくかも重要である。

(町田) 人権尊重に基づいた教育の推進に向けて、職員研修の充実を図りながら取り組んでいきたい。

(2) 議題2 教育活動について

ア 高嶋(紋別養護学校教頭)、森・黒川・米森(各学部主事)、山崎(寮務主任)から資料「令和3年

度 第Ⅰ回学校評議委員会 紋別養護学校」に基づき説明

イ 福島(紋別養護学校ひまわり学園分校教頭)から資料「令和３年度 第Ⅰ回学校評議委員会 ひまわり学園分校」に基づき説明

ウ 質疑応答 (有・無)

(藤井) 個別の指導計画を活用した、家庭、学園、学校との連携が重要である。その際、チームとして取り組もうとする意識が重要である。また、小学部では自己選択・自己決定を重点としていると説明があったが、福祉の視点としても意思決定支援を重要と考えており、早いうちから選択や決定ができるようになると良い。自己選択・自己決定をすることで、障がいの有無に関わらず、自己肯定感高めることにつながる。

(鍋島) 学校は単独で教育を進めるのではなく、地域と連携をしながら教育を進めることが重要になってくる。障がいのある児童生徒ほど、地域と連携しながら教育を行うことで、より成長を望めるのではないかと。現在いろいろな取り組みを進めていると説明があったが、継続して行ってほしい。

(高嶋) 地域の一員として、zoomなどを活用しながら学習を進めていきたい。通っている児童生徒たちは将来、地域で生活していくために、同年代の子どもたちとの学習を進めていきたい。

(鍋島) 資料の「６ 学校課題等に対する取り組み」について。学校課題の考え方には三つあり、一つ目は、学校教育目標の実現に向けて日々の指導をより充実できるようにすること。二つ目は、課題の改善。三つ目は、新型コロナウイルス感染症への対策や ICT 活用の推進などの今日的な教育課題に取り組むことだが、教育の根幹は「人権尊重」である。児童生徒の夢や願いの実現のために積極的に生徒指導を行い、児童生徒が「できた、上手くいった、人の役に立った」などの達成感を感じられるようにしてほしい。積極的な生徒指導とは、児童生徒の自己実現に向けた指導である。児童生徒が達成感を感じると、表情や動きなどに変化があり、それを見逃さずに称賛するなど、共感的な姿勢による指導を実践することで「次も頑張ろう」と学習意欲が高まっていく。児童生徒の自己存在感を高め、自己実現を図る指導を進めてほしい。学校で学んだ生きる力が、校外で発揮される。

(３) 議題３ 次回の開催日について

ア 高嶋(紋別養護学校教頭)から資料「令和３年度 北海道紋別養護学校評議員会 年間スケジュール」に基づき説明

イ 質疑応答 (有・無)

6 その他

閉会后、校内見学を実施